

Dear地球民

第9号

編集発行 ゆがわら国際交流協会

1992年11月発行

〒259-03 神奈川県足柄下郡湯河原町土肥1-7-1

湯河原町商工会内 ☎0465-63-0111

第7回

やっさ国際交流

ゆがわら国際交流協会の年間を通じての一番大きなイベント、「やっさ国際交流」。早いもので今年で7回目となりました。7月28日（火）、ブラジル、台湾、マレーシア、韓国の青年18人が、湯河原駅頭でホストファミリーの出迎えを受けました。ファミリーの持つプラカードに自分の名前を見つけて、感激の対面です。

留学生たちは、8月4日までの8日間、湯河原・真鶴の家庭に滞在し、日本の生活習慣、文化を、家族の一員になることによって知ることができました。期間中、ゆかた・ハッピー姿でやっさパレードに参加したり、湯河原中学校生徒との交流会で、日本の遊び（竹馬やコマ回し、折り紙など）を体験しました。アジアからの留学生は、東京で日本語を学んでいますが、せっかく日本にいながら、日本人と友達になるチャンスがあまりなかったと聞きました。「やっさ国際交流」が、お互いのことを分かり合う、良いきっかけになってくれたことを希望します。



やっさパレードの『地球民連』
家族といっしょに参加

われら地球民

心はひとつ

1992. 8. 28~8. 4

7

二見 康男 (土肥)
坂本・ハロ・セム・マン (ブラジル)

高橋 富江 (土肥)
社 佳 容 (台湾)

鍾 築 洋子 (鍛冶屋)
アツ・クララ・フェス (ブラジル)

福田 義徳 (福浦)
良 鈺 (台湾)

竹林 徹雄 (福浦)
カロス・アウグスト・テ・アリス (ブラジル)

柏木 光之 (鍛冶屋)
黄 湘 珺 (マレーシア)

菅 沼 謙一 (土肥)
バンジャ・ジョイセ・ビスポ・サントス (ブラジル)
李 嫻 嫻 (台湾)

土屋 誠一 (城堀)
蕭 雲 菁 (台湾)

杉山 茂久 (宮上)
デイン・ジョフリ・レオ・ジュニオール (ブラジル)

林 明德 (吉坂)
許 碧 珊 (台湾)

金子 信一 (城堀)
久保田・孝市・エイズン (ブラジル)

鳥光 弘孝 (土肥)
渡辺・順子・リリアン (ブラジル)

棚橋 芳夫 (鍛冶屋)
ヘナタ・フランコ・ダ・シルベira (ブラジル)

杉山 道隆 (宮上)
奥野・裕香 (ブラジル)
黄 雪 芳 (マレーシア)

椎名 好文 (真鶴)
頼 淑 華 (台湾)

二見 守彦 (宮上)
沈 焄 希 (韓国)



1992 Aug.

やさ国際交流

YASSA INTERNATIONAL
EXCHANGE PROGRAM

8日間の大切な思い出、ありがとう！

……寄せられた感想文から……

湯河原はすてきな町です。この町では、一番大切なものをみつけました。それは、人の心の暖かさです。私は、すばらしい家庭でホームステイをしました。菅沼家は、親切に私たちを受け入れてくれました。菅沼さんの家庭では、日本文化とか食べ物とかを知ることができました。そして、言葉が分からなくても友達ができるということを知りました。菅沼さん、本田さん、末山さん、湯河原の町、どうもありがとうございました。

(ブラジル、バンジャ・ジョイセ・サントス) 原文英語

まず、やっさ国際交流の関係者に「ほんとうに、ありがとうございます。」と、あいさつしたいです。はじめは、ここに来るかそうじゃなければ友達と旅行に行こうか決められなかったんですが、いままで日本で留学をしているのですが、日本の生活習慣や、日本人について何も知らないから、ここに来れば今よりもっとわかるようにならないかと思いました。それで、今はここに来てよかったと思います。国際交流プログラムはとてもよかったと思います。ただ、もっといろいろな国の人と話す機会が多いほうがいいんじゃないかと思います。国際化は、まず、ほかの国が存在するのをみとめるのが基本だと思いますから、そのためには、ほかの国の人はどうやって考えているか、私の国の人とちがうところは何かと、知っているのがたいせつじゃないかと思います。あとプログラムの中で、日本について(たとえば日本文化、習慣)もっと詳しく紹介するのを入れるのがいいと思います。私は日本語が上手になって、きかいがあればもう一度国際交流に参加したいです。今までありがとうございました。(韓国、沈 悦希)



” WELCOME ”
ホストファミリーの暖かい歓迎を受けて

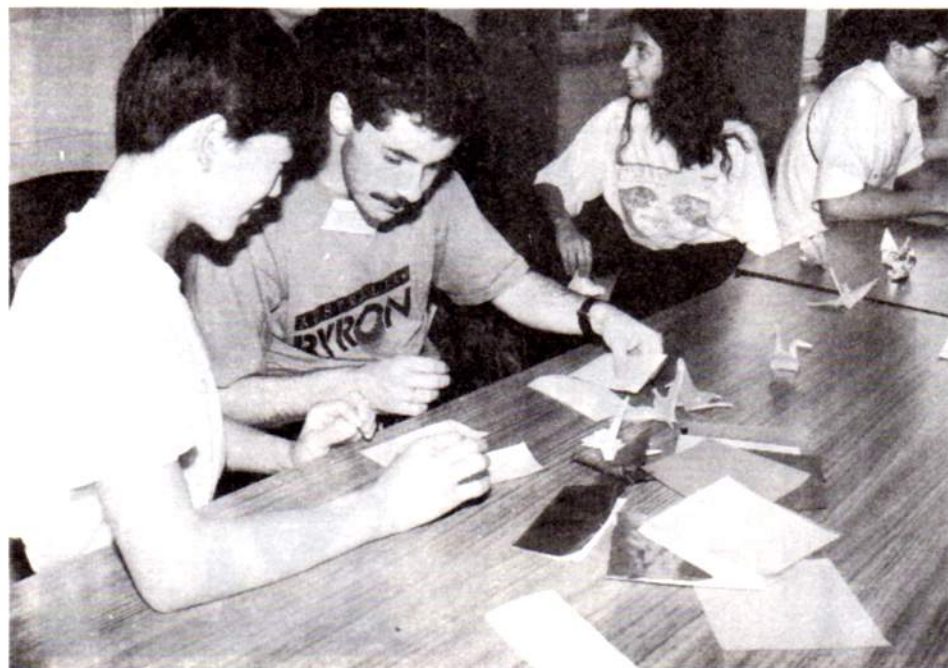
湯河原にくる前に、やっさ国際交流プログラムについてはホームステイとパレードしか知りませんでした。ところが湯河原で過ごした国際交流の意味がよくわかりました。みんなと友達になることができたし、日本やブラジルなどの文化とかライフスタイルなども深くわかりました。湯河原に来てわたしのファミリーと過ごしたことは、日本に来てから一番忘れられないです。杉山道隆ファミリーは、暖かくて楽しい家庭です。みんなに手伝ってもらって、とても感動しています。このプログラムは、とても成功です。つづけていいと思います。

(マレーシア、黄 雪芳)

この一週間、実際に日本の家庭と一緒に生活ができて、しかも何も知らないところから、次第に日本人の生活習慣を理解することができました。本当に自分で色々な体験をしました。私がこの家族と一緒に生活してみると、気のおけない家族でそれぞれに個性があって、お父さんは非常に面白くて、お母さんは親切で優しく、弟はとても可愛い“リトル・ボーイ”です。この一週間の間に、家族の皆さんが私に沢山の所を案内してくれ、更に色々な景色も見せてくれました。言葉はあまり通じなかったけれども、今では互いに分かりあえたという気持ちが随分してきました。皆細かい面倒を見て下さって、私はどのようにしていいか分かりません。椎名さんのご家族の招待に対して心から感謝します。

やっさ祭りの踊りは、練習が本当に面白かった。これは私にとって、初めての日本の民族の踊りです。しかも、8月2日の当夜は、きちんと日本の浴衣を着、浴衣にふさわしい髪型にして、本場のやっさ祭りの全てを味わいました。路上で踊りを踊るときに感じたことは、幸いにもこの活動に参加することができ、更にこんな大勢の人に見ていただいて、心の底から興奮しワクワクしました。本当によかったです。

(台湾、賴 淑華) 原文中国語



湯河原中学校で
折り紙はちょっとむずかしい

留学生をお預かりするのは今年で3回目。慣れているはずなのに、会うまでの緊張感は何だろう？会ってみると日本人そのものの可愛い「お嬢さん」。長男も長女も親近感を覚えたのか、すっかりうちとけた。日本人よりお行儀よく、よく手伝い、自分の娘のしつけに疑問を感じてしまう（主人談）程感心してしまう”我が家の紀子様”。流ちょうな日本語で家族とのコミュニケーションもとれ、一週間が大変短く感じました。今まで訪れた三人が三人とも、よく勉強し、将来の設計も出来て、学ぶことは大変多く、子供達にもよい影響となったと思います。話し合うこと、ふれあうこと、ホームステイは、一寸大変そうだけれど、得るものは大きいと思います。家族が一人増えることが、その国の家族と知り合えることなのだから。紀子ちゃん”LILIAN”また逢えるのを楽しみにしています。スタッフの皆様、いろいろお世話になりました。

（ホストファミリー、鳥光 妙子）

今年は韓国からのとても可愛いお嬢さんでした。我が家の娘たちと同世代でもあり、大変気が合い話も弾んでおりました。国や言葉が違って、若者達の考えに大した変わりはありません。国際化等と呼ばれていますが、そんな大それた考えではなく、気負わず、気楽な気持ちで、毎年子供が一人ずつ増えて行くようなそんな気持ちです。新調しておいたゆかたを我が家の娘二人と彼女に着せ終わり、どの娘にも良く似合ううれしくなっていました。商売の忙しさだけでなく、今年はオリンピックとぶつかり、夜中までテレビに釘付けになり一喜一憂しながら、寝不足の毎日が続いております。最後の夜は彼女のお国料理に舌鼓をうちながら楽しい和やかなひとときを過ごしました。毎年引き受ける際には悩みながら、終わってみるとさわやかな感激にひたっています。

（ホストファミリー、二見 守彦）



歓迎会で、ふるさと台湾の歌を披露

はじめてのホームステイでしたので不安等が頭を掠めました。坂本・パウロ・セザール・マサシ君との数日が、同じ世代の子供を持つ親として教えられること多く、生涯の思い出となって残ることと思います。留学生の皆様が国際交流のために費やした時間の尊さを考え、世界平和を願ってやみません。（ホストファミリー、二見 康男）

今回ホストファミリーになりまして、このプログラムが、私事になりますが20年前に私が派米農業青年として渡米したときに諸先輩方に教えられた言葉とオーバーラップしてなりません。「君たちは草の根の大使になれ」という言葉でした。このプログラムの持つ意味が私の思っていることと同じなら、外国に行かなくても、だれでも草の根大使になれると思います。その意味でも、このプログラムの、湯河原町での位置付けが今後大事になると思います。（ホストファミリー、土屋 誠一）

ブラジルからの研修生、久保田孝市君を受け入れ、城山学園（養護施設）で生活をしている子供達とともに過ごしました。公式日程の空いている期間に、丹沢でキャンプをし、横浜で子供達の野球の試合を応援しました。久保田君は、日系三世で日本語が堪能であり、南米銀行から派遣されていることから、日本の伝統、文化、経済に非常に興味があり、色々話し合うことができました。ホームステイということでは、一般家庭とは少し違った受け入れであったので、久保田君には窮屈な思いをさせてしまったが、日本の福祉の原点である養護施設の現状に触れ、子育ての問題、子供の生活、教育について理解し合うことが出来、大変有意義なものであった。

（ホストファミリー、城山学園 金子信一）

ゆかた、お母さんに着せてもらいました。似合うかな？



私のセンチメンタル・ジャーニー (5)

カルホルニア州はアジア系の人が多いことで知られているが、そこに住んでいる人達はお互いにうまく溶け合って生活をしているのがよく分かり、不自然ではない。今の日本でも色々な国の人達が混ざり合って暮らすことに大部慣れてきた様子だが、アメリカ程の経験が少ないので、摩擦問題は時々起こるようだが、この現象は増えることはあっても減ることはなさそうだ。

そんなアメリカの実情を見ていて、アメリカが理解できたつもりにはなれないし、本当のアメリカらしい場所で見たいところが他にあるかと問われ、躊躇なく希望した場所は南部の、伝統的な雰囲気が残っているミシシッピー河沿いにあるニューオリンズ市を指定した。

よその国なのに、なぜか強く郷愁を感じさせる都市なのだ。それは私の少年時代の思い出が重なっているからだろう。

古い映画にはミシシッピー河を背景に、いかにもアメリカらしく開放的で、自由の雰囲気に溢れた風景が描写されていた。

例えば愛らしいシャーリー・テンブルの主演する映画（題名は？）で、外輪船（パドル・スティーマー）の甲板上で、歌を唄い、タップダンスを踊り、大の鬼軍曹を相手に見事な演技を見せていた。

有名な『ショーボート』というミュージカル映画も、この外輪船が舞台だった。アール・ジョンソンという黒人の歌手の見事な低音の歌が今でも耳に残っている。

その昔奥地の穀物を（はしけ）という運搬船で海まで運送する仕事があった。貧しいながらも美しい乙女が父親の仕事を手伝っていた。その名はバーバラ・スタンウィック。彼女に好きな人ができ、その船が彼女たちの結婚式場になった。

その夜、彼女が唄った愛の歌、（ゆるやかな河の流れ）のメロディーは未だに私の思い出の歌として、レパートリーの一つである。

女優としての生涯で、おそらく映画で唄ったのは最初で最後だったのではないか。以上の河にまつわる思い出は50年も前の話だ。

私の全てとはいわないが、このミシシッピー河は誰にも言うことのなかった追憶のかけがえがなまっているのだ。

河はなにもかも大きく包み込むものがあり、それが誰しも河をみていると郷愁をひとしお感じさせるのかも知れない。

ミネソタからガルフ湾（メキシコ）までのアメリカの源流であり、2470マイルの堂々たる大河である。

飛行機の上からこの雄大な河が見えた時、故郷を見たときの心のときめきを覚えた。少しオーバーかも知れないが、次回に街の様子を報告したい。

（石井 宏樹）

日米のかけ橋 ホームステイの天国と地獄 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

ホームステイ留学生協会会長

ジャン・ウィルト・ロスさん

講演会&ディスカッション



◆日時 11月25日(水) 午後7時30分

◆場所 湯河原町役場新庁舎3階

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆湯河原町・ゆがわら国際交流協会共催

「ホームステイを成功させるには？」

「異なる文化をもつ人達との真の相互理解とは？」

先頃、交換留学中の日本人高校生がステイ先のアメリカで射殺されるという痛ましい事件がありました。希望に満ちた留学先で...と、心を痛められた方も多いと思います。ホームステイを成功させるには、どのようなことに注意すればよいのでしょうか。また、ホームステイをする人、受け入れる家庭はどうあるべきなのでしょう。

ジャンさん(アメリカ、カリフォルニア州)は、二十年近くにわたり約5,000人もの日本人のホームステイをお世話してきました。参加した人も、学生だけでなく、働く女性、農業後継者、ビジネスマン、子供と様々です。ジャンさんのプログラムは、きめこまやかな手作りのホームステイとして、日米両国で高い評価を受けています。

その成功の秘訣を、ジャンさんから直接伺ってみませんか。

なお、講演・ディスカッションは通訳付きです。

ジャンさんの活動は、これまでも毎日新聞、日本経済新聞、文芸春秋などで紹介されました。著書に『ようこそアメリカへ』(サイマル出版会)があります。

ジャンさんの言葉から

～だれもが特別な存在であり、大切な人間のはずです。現代が冷たい競争社会だからこそ、自分が大切な人間であり、必要な人間であることをもっと確信しながら生きる必要があります。ですから、わたしどものプログラムでは、“自分 独立心 良識”が身につくような配慮を行っています。ただ英語を学んだり、外国人と接するだけで、本当の国際化がはかれるのではなく、まず自分をよく知る事が出発点です。それができてはじめて、まわりの世界に対する自分の位置付けがはっきりできるのです。～